

森林や環境の問題に関わってきた研究者とジャーナリストで構成する森林環境研究会（構成メンバーは別項に記す）は、2015年4月にメンバーの大半が交代して、活動を始めることになった。

最初の会合で1年間の研究テーマを考えた時、真っ先に挙げたのが、1年後には東日本大震災から5年を迎えるということを指摘する声だった。そこから様々な議論を重ねて、「震災後5年の森・地域を考える」を特集した年報『森林環境2016』がまとまった。ここに込められた熱い思いは、「まえがき」や10本に及んだ各報告論文、「あとがき」の中から汲み取っていただきたい。森や地域、そこに暮らす人々の生活の震災からの復興については、今後も森林環境研究会の大きな課題として引き継がれていくことになる。

そのほかにも、パリ協定や東京オリンピックなど、いくつかの今日的な話題については、トレンド・レビューとして論考を取り上げた。さらに森林環境年表には、各種のプレスリリースと朝日新聞の報道から重要と思われるものを収録し、2015年の動きをたどれるようにした。

この年報が、震災復興をはじめとして、森林や環境に関心を抱くたくさんの方々に読んでもらえることを願っている。